

音楽科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

「思いや意図」をもって、意欲的に表現する子どもを求めて

二 テーマ設定の理由

本委員会では、上記テーマを継続的に掲げ実践を積み重ねてきた。昨年度までの教育課程研究協議会および、昨今では長野県音楽教育学会上小大会（平成30年度）、全日本小学校管楽器教育研究大会長野県上小大会（令和元年度）等の大会を通して、多くの参会者の先生方からいただいた意見や示唆から、次のようなことが明らかになってきた。

- ①音楽の要素の一つであるリズムについては、義務教育9年間の全ての学習につながってくる、その年、その時に確かな基礎力として身につけさせたい。
- ②音楽づくりでイメージを表現するためには「題名（タイトル）」をつけることが有効である。大切にしたいのは、「やさしくそっと風が吹く」（ppでゆっくり弾く）、「あかるくふりそぞ」（fで音が細かく、速く）というように、音楽表現に直接つながるタイトルをイメージさせることである。
- ③楽曲の持つ魅力を感じたり、音楽的にも言語的にも表現を深めたりするためには、比較することが欠かせないと考え。例えば同じ楽曲でも、異なる楽器での演奏では、全く違う楽曲に聴こえる場合がある。これには、特徴を感受し、違いを思考した上で、相手に伝える言語化の力が必要になり、その繰り返しから音楽を感じ取る力が身についてくると考えられる。
- ④音楽をより身近に、そして深く感じるためには、音楽科の学習と共に、カリキュラムマネジメントを実践し、教科等の横断的な取り組みや、学年を越えた学習が必要になる。
- ⑤「音楽づくり」の授業では、条件付けと見通しを持つことの2点が特に重要になる。

また、昨年度に本学習指導委員会が行った「コロナ禍における音楽教育に関するアンケート」からは、①各校により工夫された実践が施されており、音楽の学びを止めていないこと②活動の制限された中で、より教育的効果をねらった実践を見つけ出していくこと③制限の中から新しく発見されてきた利点があることも確かで、今後の音楽教育を考えていく上でとても有効であること④各校の工夫された実践の中から、自校に活かせるものが数多くあり、次年度以降に取り入れていきたいと思うこと の四点が重要だとわかった。

実践につながる授業研修会を企画するとともに、今までの実践から明らかになってきたことをもとに、「コロナ禍における音楽教育」をどう実践していくか、また、子どもたち一人一人が思いや意図をもって歌ったり演奏したり聴いたり創ったりしていくための授業実践はどうあったらよいのかを深めたいと考え、本研究テーマを設定した。

三 研究の経過

第1回	5月17日	第1回委員会	研究テーマ設定と研究計画の立案（オンライン）
第2回	6月3日	第2回委員会	授業検討、指導主事との懇談（於：第四中学校）
第3回	7月8日	第3回委員会	授業参観（於：第四中学校）
第4回	6月24日	音楽科授業研修会	（音楽同好会と共催 於：塩尻小学校）
第5回	11月28日	第4回委員会	総役員会 研究まとめについて（オンライン）
第6回	12月19日	第5回委員会	本年度のまとめ（オンライン）

四 研究の内容

令和4年度 音楽科学習指導案

日 時	令和4年9月6日(火) 9:45～10:35 (2校時)
題 材 名	『登場人物の心情を考えて楽曲を味わおう』
授業会場	上田市立第四中学校 音楽室
授業学級	1年5組 31(3)名
指 導 者	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課 義務教育指導係 指導主事 荒井 和之先生
授 業 者	上田市立第四中学校 教諭 田中 美貴

I 音楽科の研究テーマ

「Chromebook を活用した授業のあり方 ～鑑賞教材における活用方法と評価について～」

II 研究内容

1 題材名 『登場人物の心情を考えて楽曲を味わおう』 (全4時)

教材名 歌曲『魔王』 F.P.シューベルト作曲／ゲーテ作詩

2 教材研究

『魔王』は、詩の内容を手がかりに情景をイメージすることができ、登場人物の声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化に着目して聴くことで、曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを捉えやすい楽曲である。また、4人の登場人物の心情の変化を独唱という演奏形態で表現しているという点に音楽表現の豊かさや幅広さを感じることができる楽曲であるため、生徒が、演奏者による表現の工夫と曲想との関わりにも考えを広げながら、楽曲のよさや美しさを見いだすことができると考えられる。これらの学習を通して、詩の内容と音楽を形づくっている要素との結びつきを感じ取らせ、歌曲の表現の豊かさを味わわせたい。そして、生徒が主体的により深く楽曲を味わえるようにしたい。そのために、朗読劇を取り入れて詩の内容を深く理解したり、常に聴くポイントを明確に提示し、聴く時間や考える時間を十分に設けたりすることで、自分の言葉で説明し合える環境をつくっていきたいと考えている。

3 題材の目標 (鑑賞部分)

- | |
|--|
| (1) 『魔王』の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、曲想と音楽の構造との関わりを理解する。
(知 識) |
| (2) 『魔王』の曲想と音楽の構造との関わりについて考え、よさや美しさを味わって聴く。
(思考力、判断力、表現力) |
| (3) 『魔王』の魅力とその魅力を引き出す独唱の表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。
(学びに向かう力、人間性等) |

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力、人間性等
<p>・曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>	<p>・声の音色や強弱、音の高さ等の旋律の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>	<p>・『魔王』の魅力と、その魅力を引き出す独唱の表現に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

5 指導上の留意点

- (1) 朗読劇においては、詩の内容を確実に理解するために、難しい言葉を確認したり、登場人物になりきって表現するように促したりする。
- (2) 楽曲を聴き感想をもつ場面では、chromebookを使わずに学習カードに記入することを促すことで、曲に集中させる。

6 題材の展開

時	学習内容	知・技	思判表	学び
第1時	<p>○歌曲「魔王」の歌詞の内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉（古語）や意味の分からない言葉を出し合い、確認をしていく。 ・物語の内容を確認する。（なぜ子どもは死んでしまったのか等） <p>○詩を読み、登場人物の心情について考える。</p>	○		○
第2時	<p>○グループで朗読劇の練習・発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで配役を決めて、朗読劇の練習をする。 ・登場人物になりきって、朗読ができるようにする。 			○
第3時（本時）	<p>○グループで工夫した点をいかしながら朗読劇を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の朗読劇の工夫の良さや自分たちの朗読劇との違いについて、気付いたことを発表するように促す。 <p>○『魔王』を鑑賞し、どのような表現をしていたか感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目は原語で聴かせ、2回目は日本語版でメロディを確認し、もう一度原語で聴き、どのような表現で歌っているかを記述する。 <p>○聴き取った表現は、作曲者が音楽的要素を工夫したことであることを説明し、次時の課題を伝える。</p>	○	○	
第4時	<p>○それぞれの登場人物の表現が、音楽を形づくっているどんな要素や構造からくるのか、曲想との関わりを感じながら考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の音の高さ、強弱、伴奏に着目しながら聴き、登場人物の表現の特徴を考える。 <p>○作曲者・作詩者について確認する。</p>	○	○	○

7 本時案

(1) 主 眼

歌曲『魔王』の朗読劇をする場面で、登場人物の心情に着目し、どのように工夫して朗読すればその心情を表せるかについてグループの友と考えて朗読劇をした生徒が、その朗読表現をしたことを観点に初めて『魔王』を鑑賞する活動を通して、音楽の諸要素に結びつくような表現を聴き取ることができる。

(2) 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間
導 入 展	1 本時の学習の内容を確認する。	ア 練習したように、自分たちの工夫した朗読劇の発表ができるように頑張ろう。	◇朗読劇の発表をする事を伝え、登場人物になりきって朗読するように促す。	5分
	2 どのように工夫して読めば登場人物の心情が表れるか、朗読劇で発表する。	イ 「子」は恐がっている感じが強くなると思ったので、最初は弱々しい感じで、最後はさけぶような感じになるように大きさと表現を工夫した。 ウ 「魔王」は怖い感じを出すために声を低くして表現していたが、自分たちの工夫と違うな。 エ 「父」も最後は心穏やかでなくなってきた感じが友の発表から感じ取れた。	◇登場人物の心情を、どのように表現しようとしたのか発表してから、朗読の発表を行うように促す。 ◇友の工夫の良さや自分たちの表現との違いについて、気付いたことを発表するように促す。 ◇歌曲では4人の登場人物を1人で歌い分けていることを伝える。	15分
開	【学習課題】 歌曲「魔王」で登場人物の心情をどのように表現しているか聴き取ろう。			
	3 『魔王』を鑑賞し、どのような表現をしていたか感想を発表する	オ 自分たちが読み取った登場人物の心情を歌曲ではどのように表現しているのだろう。 カ ドイツ語で何を言っているかわからないので、日本語版も聴きたい。 キ 原語版のほうが迫力のある音楽だった。 ク 「父」は「子」をなだめる感じをだすために、なめらかな感じに聴こえた。 ケ 「子」は訴えている感じをだすために、だんだん声が大きくなっていった。 コ 「魔王」は案外やさしい感じで歌っていた。「子」を誘うような明るい感じだった。 サ 「テキストマイニング」で見ると、魔王の捉えが朗読劇の時と違うなあ。 シ 子の捉えは、自分たちと同じ仲間が多いなあ。	◇心情の変化をどのように表現しているのかを観点に、鑑賞するように促す。(1回目：原語) ◇原語版ではどこを歌っているかわからないと思われるので、日本語版の「魔王」も用意しておき生徒の反応で鑑賞する。(2回目：日本語) ◇3回目は登場人物名を知らせ、確実に特徴が聴き取れるよう配慮する。(3回目：原語) ◇具体的に登場人物の心情をどう表現していたか、登場人物ごとに聴き取った内容をワークシートに記入し、chromebook のフォームを使って、入力するように促す。 ◇入力した内容を、「テキストマイニング」で集約し、聴き取った内容を全体で共有する。	25分
終 末	4 次時の課題を知る。	ス シューベルトはそれぞれの登場人物の気持ちを表すために、どんな音楽の諸要素を工夫して作曲したのだろう。次回が楽しみだ。	◇聴き取った表現は、作曲者が音楽的要素を工夫したことである事を説明し、次時の課題としてその要素について分析することを伝える。	5分

8 実証の観点

- (1) 歌曲「魔王」の鑑賞において、朗読劇を取り入れたことは、音楽の諸要素に結びつくような表現を聴き取ることにつながったか。
- (2) 登場人物の心情をどう表現していたか、聴き取った内容を集約するために chromebook や言語集約アプリ「テキストマイニング」を使ったことは、本時の学習において有効であったか。

9 参会された先生方からのご意見 ※特に本研究のテーマにかかわる部分に下線を加えた

○朗読劇について

- ・授業について、「魔王」を一度も聴かないで、登場人物の心情を考え、表現を工夫して朗読するという活動。一人一役だったものが、一人四役で歌っていると知った生徒は驚き、聴いてみたい！となり、学習課題にうまく流れていったのではないかと感じた。また、歌では無く朗読であることで、歌うという技能面を考えなくてよいので、生徒たちにとって取り組みやすくなってよいなと感じた。そして十分に心情を考え、工夫したからこそ、自分たちと他の班や「魔王」を聴いた時の音源と比べることができたと思う。
- ・授業においては、朗読劇で生徒に表現法を考えさせた後に、初めて曲を鑑賞するという授業展開が印象的だった。私が中学校で「魔王」を学習した際は鑑賞→表現法の学習という流れだったが、本時の表現法の考察→鑑賞という流れだとより音楽の表現法に対する生徒の考察を深めやすいのではないかと感じた。
- ・朗読劇をしたことが、鑑賞する意欲に大きくなつていったと思う。他に資料のない中、流れる音楽に集中して聞いている生徒のみなさんの姿がとても印象的だった。
- ・音ではなく、詩を味わうところから導入を行う鑑賞は、イメージを膨らませる力が必要なので難しいとは思いますが、自分たちの解釈と実際の演奏との比較や表現の変化をしっかりと感じ取る生徒が多く、感心した。
- ・子どもたちが必要感をもって活動に取り組んでいる姿が印象的だった。どの生徒も自分の考えをしっかりと記述することができていて、それはこれまでの授業の流れや先生の工夫があったからこそだと思う。

○ICT(テキストマイニング・スプレッドシート)について

- ・中学生で人数もそれなりにいれば個々の発言を授業内で拾うことが難しいと思うので、そのような場面でフォーラムやテキストマイニングは今後活用してみたいと思った。
- ・自分の声で伝えたい感情を表現する事は難しいと思うが、テキストマイニングには生徒の感じ取ったことが詳しく描かれており、また共有がすぐでき、すごいと思った。
- ・生徒の考えを瞬時にまとめることができるテキストマイニングで考えを整理することがとても参考になった。
- ・ICTを使うことが目的ではなく、生徒の学びが深まるためのツールとして活用していることがとても勉強になった。

○評価・全体について

- ・スモールステップで生徒たちの主体性を無理なく引きだそうとされているのがすばらしいと感じた。生徒たちも意欲的に題材に向かい合っている様子がわかった。鑑賞は聴く視点を示すことと、最後のまとめが難しいと日々感じているが、朗読によって高まった聴く意欲と、ICT機器やテキストマイニングの活用によって、楽曲のよさが焦点化していったのを感じた。次時の課題が生徒の感想から据わるという流れも、自身の授業で生かしたいところだ。
- ・朗読劇での表現や、観賞曲の感受を豊かにでき、そのもととなる知覚の分析ができるようになるためには、やはり小学校での授業の一つ一つが大切と感じた。
- ・登場人物の心情や台詞と音楽の要素を更に関連させるために、画像(動画)の設定も、1つの手立てになるのかなとも思った。ソプラノ歌手の動画なども、有効な手立てになるように感じた。
- ・新学習指導要領へシフトアップされている様子にも学ばせていただいた。
- ・この「魔王」は鑑賞教材の中でも、表現の感受において、とても有効な教材だと思っている。
- ・今、表現することに抵抗のある中学生の時代、今時の子ども達の感受する力、感受した物を言葉として表現させるために、朗読劇は取りかかりとしてとても有効であったと思う。それを教師側が評価として感じ取るために、音ではなく、紙面の言葉で評価するしかないのだろうか。そこが自分が授業を行った時にどうすべきか悩むところだ。

10 指導主事の先生からのご指導

○本時の授業から

- ・「魔王」が物語性のある素材なので、朗読劇を取り入れたことが、心情がどんな音楽で表されるかに着目して聴く姿につながっていた。朗読劇の発表に向けて表現の仕方を話し合うなど題材と向き合う姿が見られた。

○知識・理解や思考にかかわるICT活用について

- ・例えば理科学習の場合の活用を考える。教師が意図なく授業を進めた場合には、児童は考えを深めることなく理解した気持ちになってしまう。ここで、授業改善の視点を入れてみた場合は、付箋の機能を使って考えを容易に交換し、新たな疑問や気づきにつながりやすくなる。

○授業改善・学びの充実につながるICT活用について

- ・7月の事前授業でも、第四中ではカノンとフーガの形式理解のために音楽ソフトを活用して音の重なりを体感できるように工夫していた。本時のねらいに合ったICT活用が有効だった。
- ・一人一台端末の普及により、実践は広がってきている。「まずは使ってみる」段階を過ぎて、「目的に合ったICT活用」を考える段階になってきている。あくまでも、生徒に育成する資質・能力や学びの充実につながる活用を意図していきたい。

五 研究のまとめと課題

本委員会では本年度の実践を通して、下記のように研究を深めてきた。

第四中学校の「登場人物の心情を考えて楽曲を味わおう」の授業実践を通して、わかってきたこととしては、次のことが挙げられる。

- ① 鑑賞と表現活動を関連させた授業実践であり、感受したことを言語化するだけにとどまらない効果が見られた。特に、楽曲の物語性や台詞から登場人物の心情にせまって朗読劇に表現する活動においては、生徒が登場人物の心情にせまって、強弱や音色、音の高低といった音楽的要素につながる工夫をもって朗読をしている姿があった。
- ② 上の①では、本研究委員会のテーマ「『思いや意図』をもって、意欲的に表現する子どもを求めて」が実現されていると考えられる。つまり、どのように登場人物の心情を表そうかという「思いや意図」をもって朗読劇を行い、音楽の諸要素に結びつくような表現を聴く力が高まっていたと考える。
- ③ 鑑賞題材と表現活動のかかわりや、展開の工夫について、参観者が自身の取り組みと比べながら学ぶことができた。
- ④ ICTの機能として、Googleスプレッドシートやテキストマイニングを使ったことが、生徒の感じ方や考えの集約・共有にとっても有効であった。特に、ICTを利用する場面をしばることで、ICTを使うことが目的ではなく、生徒の学びが深まるために活用できる具体的場面を理解することができた。同じく、活用の利点として、録画再生が個々の機器で自由にできることを生かし、自分と仲間の劇の違いを何度も比較鑑賞でき、共感や感受の幅を拡げるきっかけにすることができた。学習の深化や対話が生まれるきっかけになるツールとして、ICTを有効に活用していたと考える。
- ⑤ 鑑賞題材での評価について、朗読劇を取り入れたことが、心情を表す音楽の工夫を予想することとなり、そのまま鑑賞の視点として生かされて評価につながっていた。

また、教育課程研究協議会の研究協議Ⅱや、音楽同好会との共催の音楽科指導研修会からわかって

きたこととしては次のことが挙げられる。

- ① 第四中学校の実践で記述された生徒の学習カードをもとに、評価のあり方を参加者で考え合う機会が有意義であった。特に、生徒の記述を音楽から知覚した内容と、感受した内容に整理してとらえたり、次時への意識付けに生かす手立てを考えたりできたことが、参加者にとって自らの授業改善につながるものとなった。
- ② 音楽同好会と共催した音楽科指導研修会では、実践発表のほかに、実機を用意して設定方法を確認するなどできた。オンラインによる研修が多くを占める中で、chromebookの活用方法を対面で学ぶ機会が必要なことがわかった。

上記まとめと課題をふまえ、「主体的、対話的で深い学び」を音楽科でどのように実践してくか、「コロナ禍において、音楽科におけるカリキュラムマネジメントの在り方」をどのように行っていくかについて、さらに研究を深めていき、今後、本委員会から発信していきたい。